

今週の御言葉 「神はこの方を死者の中からよみがえらせた」

(イザヤ書 65 章 17 節～25 節)

「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。先のことは思い出されず、心に上ることもない。だから、わたしが創造するものを、いついつまでも楽しみ喜べ。」(65:17, 18)。

(使徒の働き 13 章 26 節～31 節)

「こうして、彼らはイエスについて書かれていることをすべて成し終えた後、イエスを木から降ろして、墓に納めました。しかし、神はイエスを死者の中からよみがえらせました。」(13:29, 30)。

今日のメッセージ要旨

◎私たちの信じている神様は新しいものを創造すると約束して下さいました。その新しいこととは何でしょうか？ 何を期待し、何を喜ぶのでしょうか？

◎イザヤ書65, 66章、預言者イザヤの祈り(63, 64章)に対する神様の応答です。これは、イスラエルの民のみならず、真の神様を真剣に求めているすべての民に対して語られているのです。神様は聖なる方であり、悪をさばき、罪を責められる厳しい審判者ではありますが、同時に、神様の主権を認め、罪を悔いて謙虚に正しく生きる者には、永遠の終末的希望を与えられと約束されているのです。

神様は、外見的な何の差別もなく、真の神様、天地の創造の主である御自身を畏れ、その御旨に生きる者を祝福されるのです。これこそ、終末において実現する新しい創造の御業なのです。キリストによる新しい創造です(Ⅱコリント5:17)。

65章の最後の部分には、新天新地の栄光に輝く終末的な祝福が、神様の主権のもとに約束されている。新しいエルサレムが創造され、贖われた神様の民は、時の制限もなく、恐怖からも解放され、神様の統治のもとに生かされるのです。

◎使徒の働き13章13～52節の内容は、パウロとバルナバのピシデヤのアンテオケでの宣教です。12章で、ヘロデの死はユダヤの教会を励まし、「神のことはますます盛んになり、広まっていった」(24)。ユダヤから遠く離れたアンテオケで、新しい御業が始まったのです。バルナバはタルソから連れてきたサウロとそこで奉仕していた(11:25, 26)。この13章の初めに、聖霊によって「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい」との導きに従い、断食と祈りをして、預言者と教師が、二人の上に手を置いて送り出した(2, 3)。

二人は「神のことば」を宣べ伝えたのです。そこに多くの人に飢え乾きが与えられ、「神のことば」を聞きたいとの思いが起こされ、「主の教えに驚嘆して信仰に入った」のです。パウロはイエス・キリストの十字架の死と復活による出来事を「救いのことば」として伝えたのです。またイエス・キリストによる「罪の赦し」及び「解放」を宣べているのです。安息日に町中の人々がパウロの説教を聞きに集まったのですが、ユダヤ人たちは「ねたみに燃え、パウロの話に反対して、口ぎたなくののしった」。そのことによって異邦人伝道の道が開かれたのですが、パウロはユダヤ人の救いを心から願っていたのも事実です。

「異邦人たちは、それを聞いて喜び、主のみことばを賛美した。そして、永遠のいのちに定められていた人たちは、みな、信仰に入った。こうして、主のみことばは、この地方全体に広まった」とあります。迫害を受けながらも「弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた」のです。日々み言葉を読み、主の言葉に養われ、喜びと聖霊に満たされた歩みを深められたい。